戦争させないアクション

子どもを守りたい

愛知・豊橋

愛知県豊橋市の豊橋駅前で29日、市民の呼びかけによるスタンディングが行われました。集まった60人は、さまざまなデザインのプラカードやペンライトを掲げてアピールしました。

主催した、もっちゃん（Xのアカウント名）さん（58・会社員）＝豊川市＝は、これまでガザでの虐殺に対する抗議スタンディングや反差別カウンターを行ってきました。「行動する大本には『人権』がある」と語り、1月からは毎日「戦争反対」などを掲げ、ひとりスタンディングを続けています。

豊川市に住む会社員（25）は10カ月の子を抱き、母親（53）と3世代で参加しました。「高市政権になってから、国民の命が危険にさらされていると感じます。子どもを守りたい気持ちで参加しました」

「今、なんとなく戦争が近づいている気がする」と話す92歳は、豊橋市中心部から10キロメートルほど離れた場所に住んでいた子どものころ、豊橋空襲で市街が燃えるのを見たと言います。「豊川海軍工廠（こうしょう）への空襲では、いとこが亡くなりました。戦争は何十年たっても忘れられん」と語りました。

日本共産党の、しもおく奈歩県議と中西みつえ、鈴木みさ子両市議も参加しました。

プラカードを掲げてアピールする、もっちゃんさん（手前）＝29日、愛知県豊橋市

ペンライトなど推しグッズを掲げてアピールする参加者＝29日、大分市

今ならギリ言える

大分

大分市のJR大分駅前では29日、「せんそうさせない緊急アクション@おおいた」が行われました。SNSでの呼びかけに応え参加した50人がペンライトやぬいぐるみなどの「推しグッズ」を掲げてアピール。「せーので言ってこ、戦争反対！」とコールを響かせました。

20代のモカさんは「平和だった日本が今、武器をつくり戦艦を売り、全国にミサイルを配備するなど大きく変えられようとしている」と訴え。ひとりスタンディングを始めたというえりさんは「戦争はさせないと今ならまだギリ言える」とリレースピーチしました。

主催した女性は、自民党や維新などが27日に強行成立させた「国家情報会議」設置法について「市民を監視し、プライバシーを侵害するもの。廃案に追い込もう」と呼びかけました。

高校生らが「戦争はんたーい」と声を上げて通りかかるなど注目を集めました。

北海道新幹線工事凍結を

共産党が機構などに要請

鉄道・運輸機構に工事の中断などを求める畠山氏ら＝29日、札幌市

日本共産党北海道委員会（千葉隆道委員長）は29日、畠山和也党道副委員長（元衆院議員）を先頭に、北海道新幹線札幌延伸工事に伴う入札の「談合疑惑」について、JR北海道、国土交通省道運輸局、鉄道・運輸機構へ要請を行いました。

官製談合防止法の対象であり、発注者の鉄道・運輸機構に、▽「談合疑惑」の徹底究明と解明されるまでの間の工事中断▽全容と再発防止策を道民に明らかにする―の2項目。JR北海道と運輸局には、▽JR北海道が沿線自治体の財政負担を含む「見直し」を求めている「黄色線区」や、バス転換を決めた並行在来線について維持・存続に向けた方針に転換すること―を加えた3項目を要請しました。

鉄道・運輸機構は、「必要な調査に協力しつつ、一日も早い完成・開業を目指す努力を続ける」と開き直りました。

畠山氏は、事業費膨張、有害残土問題、工事現場での死亡事故などこれまでに多くの課題が噴出してきた中で起きた「談合疑惑」だと指摘。「道民の宿願を裏切る行為であり、全容解明なく工事を続けていいのか」と厳しく批判しました。

要請には平岡だいすけ道議候補、佐々木あけみ、森つねと、橋本みか各札幌市議候補と、浅野かなめ小樽市議候補が参加しました。

地域発

ニュース、写真、催し案内などのご連絡は下記へ

東日本総局（仙台）
電話 022（224）9565
FAX 022（224）9566

首都圏総局（東京）
電話 03（3353）4708
FAX 03（5379）2419

東海・北陸信越総局（名古屋）
電話 052（262）0476
FAX 052（264）0285

関西総局（大阪）
電話 06（6796）8471
FAX 06（6796）8472

西日本総局（福岡）
電話 092（411）5395
FAX 092（411）5373

速やかな追加給付を

鹿児島 生健会が市に要請

鹿児島市生活と健康を守る会は28日、生活保護の引き下げは違法とする最高裁判決を受けての追加給付について、鹿児島市福祉事務所に対し、原告、生活保護受給中の世帯、廃止世帯へ給付金を適正かつ迅速に給付するよう申し入れました。

祝迫加津子会長ら9人が市役所を訪れ、追加支給について進捗（しんちょく）状況などを尋ねました。祝迫会長は「原告以外にも早く給付を。物価高の中、まずは現在の受給者に対して速やかに届くようにしてほしい。支給漏れがないよう市民の広場でも大きく目立つよう掲載してほしい」と求めました。市の担当者は「広報、受付窓口、コールセンターなどを設けて周知徹底する」とこたえました。

長引く物価高騰の下、夏の暑さ対策について▽エアコンの保有実態を調査し、ない人には支給すること▽夏季加算を国に求めること▽電気料金滞納者に対する電気供給ストップをしないよう九電に申し入れることなども要望しました。

坪田候補（中央）を囲んで要求を掲げる参加者＝29日

暮らし第一へ転換

滋賀県知事選 坪田氏勝利へ集会

滋賀県知事選（6月18日告示、7月5日投票）で「明るい滋賀県政をつくる会」は29日、「いのち・暮らし・教育　変えよう県政スタート集会」を草津市で開きました。坪田いくお候補＝日本共産党推薦＝は「憲法9条を守り、暮らし第一の憲法を生かした県政に変えよう」と訴えました。

坪田氏は27日に発表した政策「滋賀から変える『二つのチェンジ』と『五つの提案』」を紹介。「物価高を乗り越える賃上げが必要で、政治ができることは最低賃金の引き上げです。中小企業に賃上げの補助金を出し、最賃審議会に働きかけたい」と力を込めました。

「交通税」について反対を主張し、「公共交通のための県の予算を充実させたい」と訴えました。

日本共産党の節木三千代県議が自民党追随の三日月県政を告発。「滋賀首長九条の会」の藤澤直広事務局長が講演しました。

平和な世界へ9条広めよう

山形・鶴岡で碑完成

山形県鶴岡市のつるおか・たがわ九条の会は28日、同市で九条の会世話人の伊藤千尋氏を講師に迎えて「九条の碑完成記念講演会」を開催し、160人が参加しました。

同会は2025年11月、結成20周年記念事業として同市内の「鶴岡協同の家こぴあ」敷地に、約600人の募金によって「憲法九条の碑」を建立しました。

記念講演会で、伊藤氏は「世界はどうなっているのか、いま九条を掲げる意味は何か」と題して講演しました。

アメリカ、イスラエル、ロシアは「大国主義、軍事国家」だとし、日本でも高市首相が来春に向けて改憲発議をめざすなど、急速に軍事化が進んでいると指摘。しかし、人類初の平和憲法として9条を発案した幣原喜重郎首相の「世界に9条の精神を広めることこそ平和国家日本がやること」という意思は現在も息づいていると述べました。

伊藤氏は9条の碑について、将来に平和な世界をつくるための市民自身の運動だと強調。日本の若者が前面に出たペンライト集会などの行動をはじめ、人々がいっせいに行動を展開すれば社会は変わると訴えました。

伊藤氏の講演を聞く参加者＝28日、山形県鶴岡市

改憲の危機を周りに伝えて

茨城・東海村で講演会

茨城県東海村の青空の会とうかい（事務局・9条の会とうかい）は同村で30日、「高市外交と日米関係の今後」と題し、政治学者で高千穂大学教授の「五野井郁夫講演会」を開催しました。

五野井氏は「みなさんと危機感を共有したくて来ました」と、高市早苗首相がめざす改憲までの最短ロードマップなどを示し、国会発議や国民への提案、国民投票など急速に進む流れを説明。立憲主義と平和主義、民主主義を約束している「現憲法は変える必要はない。『改憲されたら大変なことになる』と今から周りの人たちに伝えてほしい」と呼びかけました。

選挙以外に、今日からできる直接民主主義として▽憲法審査会の傍聴▽駅前での宣伝▽集会への参加▽各政党や首相官邸のご意見フォームの活用▽ペンライトデモなどを提案。「地域から野党共闘を広げてほしい。また『昨日の敵は今日の友』と言い、話し合うことで仲間になれる可能性はある。与党の人たちにも訴えていこう」と力説しました。

総局日誌

【関西】大阪市の中心部では、2031年開業予定の鉄道路線「なにわ筋線」の大規模建設工事が進行中です。大阪市をよくする会の「夢洲・大規模開発」ウオッチングに同行して建設現場をあちこち見てきました。

新たに3駅が地下深くにつくられており、JR難波駅に向けたルートにある道頓堀内の建設現場を上からのぞくと、かなりの深さで工事が行われていました。

不要不急にもかかわらず21年に着工。JR西日本と南海電鉄共用の鉄道で、関西国際空港から大阪駅

巨大開発と都構想

（地下化）、新大阪駅などを南北に結ぶ巨大開発です。

危惧された通り、物価高騰や工事費の上振れなどで総事業費が3300億円から6500億円に膨張。大阪メトロ御堂筋線など既存の路線がすでに複数あり、「本当に必要か」の思いが改めて膨らみます。

暮らしに冷たい一方、夢洲、淀川左岸線2期、東部・北部開発とめじろ押しの大阪。不要不急・大企業支援の巨大開発推進のために維新が狙う3度目の「都構想」阻止へ、怒りを込めて追い続けます。

（大阪府・森尾町子）

つり

宮城 北川支流

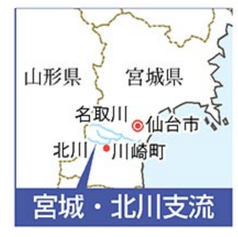
ニジマス

魚たくさん、孫たち歓声

お祭り状態20尾超

「また、さかなつりがした～い」との孫の一言で、5月9日、川崎町の名取川水系・北川支流にある管理釣り場「新東北笹谷渓流つり」に出かけました。私たち祖父母と息子2人、1歳から8歳までの孫4人の計3家族8人が集まりました。

私はコイ釣り専門ですが、渓流釣りの道具も一応持っています。この釣り場は珍しく、入場料を支払えば道具やエサの持ち込みが自由で、釣った魚はすべて持ち帰ることができます。うわさでは、大量に釣って魚屋に売る強者もいるそうです。



山形から車で1時間かけて午前10時ごろ到着。宮城在住の長男家族も着いたので、入場料（おとな3800円×3人で計1万1400円＝おとな1人1本のサオで計算）を支払って釣り場へ。

澄んだ水の中に、20～30センチのたくさんのニジマスが出迎えてくれました。孫は「おっきい、いっぱいいる」と、まだ釣れてもいないのに歓声を上げています。

仕掛けは前日に作ったので、あとはエサのミミズを付けるだけ。1時間に1回ほど放流するので、その後が狙い目です。投入してから、すぐに釣れましたが、その後はなかなか釣れません。

朝に入場した人たちが帰った11時半ごろ、なぜか急にニジマスがエサを食べるようになりました。こうなると〝お祭り〟状態です。孫たちも何尾かずつ釣り上げます。

私は、魚がのみ込んでしまったハリを外してあげるので一苦労。さらに、孫たちはミミズを触れないので、いちいちエサを付けてあげなければなりません。それでも、孫たちは魚には何とか触れるようになりました。

2時間半で20尾超の釣果でした。調理場も整備されていて包丁なども自由に使えるので、私と長男の2人で魚の頭と内臓を取って塩を振り、持ち帰りました。

この釣り場は大小10個ほどの池が小さな滝でつながっていて、ゴールデンウイークには多くの人でにぎわっていました。サオのレンタルやエサの販売があるので手ぶらでも大丈夫です。ただ、深さが1・5メートルほどあって子どもにはライフジャケットが欠かせないので、持参してほしいです。

息子たちは帰宅後、早速ニジマスを焼いて、喜んで食べたそうです。特に8歳の孫は日ごろ魚をまったく食べないのに、「自分が釣ったんだ」と自慢しながら2尾を完食したとのこと。秋にも行こうと話しています。

（山形・鯉するおやじ）

※写真はすべて一部加工

親子で楽しむ

良型ゲット!!

大漁に興味津々

渓流ザオ4・5～5.4メートル、道糸2号、ハリス1号、ハリ・赤袖モリ7号、オシビ・割大、玉ウキ小

山行・ハイキング

◆奈良・若草山（わかくさやま・342メートル）

5月16日、かたくり山の会の山行に参加した。JR奈良駅に午前9時10分着。ならまちエリアをぶらぶら歩き、猿沢池、奈良公園、春日大社を経て、若草山入り口へ。入山料150円を支払い、南登山道の急な木の階段を登る。

北登山道との合流点が、「若草山一重目」地点である。東大寺大仏殿の屋根がよく見える。「若草山二重目」を過ぎると、西斜面一帯にワラビの群生地が現れた。ここで30分ほどワラビ摘み。指でポキッと折れ、両手にいっぱい、袋にいっぱいとれた。

頂上付近には古墳があり、市街が一望できた。「若草山三重目」で昼食。周辺の鹿が鼻先を寄せてくる。薫風が心地よく、涼しい。春日山遊歩道を下山。奈良公園に1時間ほどで到着し、午後3時、電車に乗った。

（大阪・深谷風山・75歳）

◆大分・由布岳、大分・宮崎・祖母山（ゆふだけ・1583メートル、そぼさん・1756メートル）

5月17日午前8時半に、由布岳の正面登山口に到着した。外国人登山者が多い。急な登山道をゆっくり歩き、2時間で西峰と東峰の分岐点に着いた。西峰の険しい岸壁に恐れを抱き、まず東峰に登る。

山頂のパノラマを楽しみ、岩陰で昼食。向かい側の西峰に目をやると、山頂をめざす登山者がよく見える。その姿に勇気をもらい、迷いを振り切り、最高地点西峰に向かった。同行した妻の協力を得ながら、いくつかの鎖場を慎重に登り、ついに正午、山頂に立った。

翌18日は百名山の祖母山へ。三県境、国観（くにみ）峠へと続く新緑の稜線（りょうせん）歩きが楽しい。

午前11時半に山頂着。好天に恵まれ、前日の由布岳も見える。これぞ山旅だ、と景色を堪能しながら、風穴コースの復路を下りた。

（岡山・田中俊正・76歳）

◆岩手・秋田・八幡平（はちまんたい・1613メートル）

八幡平は日本の百名山の一つで、夏は軽装でも登山ができ、人々に親しまれている。その八幡平の雪が残る鏡沼に、ドラゴンアイが現れる。

5月9日ごろ、奈良から大学の同級生が岩手へやってきた。このときには山頂はアイスバーンになっていって、車で通過できず。

数日後、暑い日が続いたせいかドラゴンが顔を出したらしい。びっくりしつつも、ストックを使い、今年も八幡平山頂から鏡沼に登った。

まわりにはまだまだ雪が残り、結構雪解けはしていたが、完全な目玉はなかった。しかし青い空と一緒になり、きれいだった（写真）。

月曜日だというのに、多くの人でにぎわっていた。人気の山となったのを実感した。

（岩手・成澤廉子・75歳）

■投稿募集
「山行・ハイキング係」と明記し、氏名（ペンネーム）、住所、年齢、電話番号を。掲載文にはクオカード進呈
■送り先 〒151-8675 東京代々木郵便局　私書箱62号
FAX03（3350）1904
メールhensyukoe@jcp.or.jp